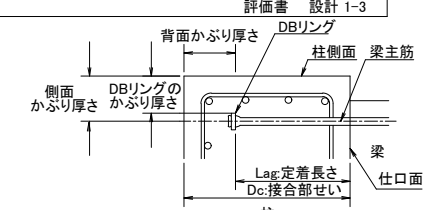


# DBヘッド定着工法 (RC) 配筋要領図

## DBヘッドの定着長さ、かぶりの定義



- かぶりに関する規定
- ① 背面かぶり厚さは4db以上を基本とする。ただし、Lag≧15dbの場合、背面かぶり厚さは3db以上。
  - ② 側面かぶり厚さは主筋中心より3db以上とする。
  - ③ DBリングのかぶり厚さは建築基準法施工令第79条で定める値以上とする。
- ※ db: 鉄筋呼び名に用いる数値

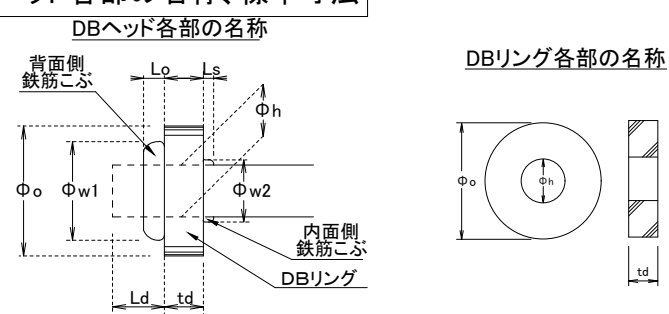
## 設計フロー 「置換え方式」

設計指針10章(1)(2)に示す、技術基準解説書の接合部せん断検定条件が一貫構造計算プログラムで確認されている場合に、設計指針10章(2)の構造規定を満足することを確認する検定方式を指す。

## 技術適用の範囲

- 構造種別
- ① 鉄筋コンクリート(RC)造
  - ② プレキャストコンクリート(PC)造
  - ③ ①~②のプレキャストコンクリート造
- 使用部位
- ① 梁主筋および柱主筋の柱梁接合部への定着
  - ② 梁主筋の梁への定着
  - ③ 柱主筋の基礎部への定着
  - ④ 基礎梁主筋の基礎部への定着
  - ⑤ 壁筋の柱、梁および壁への定着
  - ⑥ 小梁主筋およびスラブ筋の梁への定着
  - ⑦ アンカーボルトの定着
- コンクリート  
普通コンクリート 21~60N/mm<sup>2</sup>
- 鉄筋  
(鋼種)SD295A,B SD345 SD390 SD490 (呼び名) D16~D41  
※ 鋼種SD490によるDBヘッドの製造には、天然ガス加熱または高周波誘導加熱による自動製造装置を用いること。  
※ 本工法の使用に際しては、㈱ディビーエスの技術検討を受けることを基本とする。

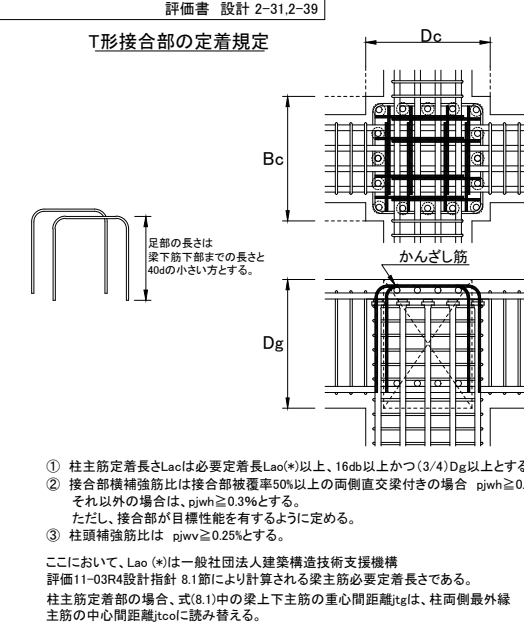
## DBヘッド各部の名称、標準寸法



## 各部の標準寸法

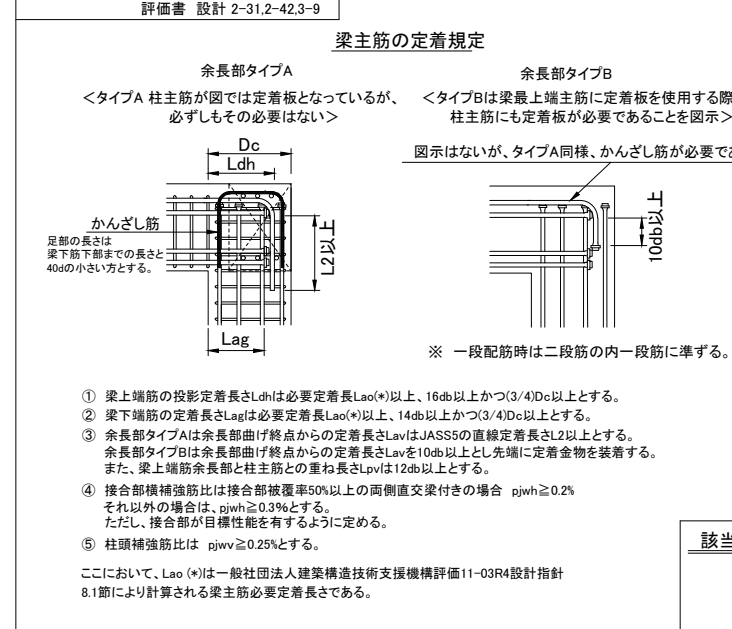
鉄筋呼び名 db	背面側鉄筋こぶ		内面側鉄筋こぶ		DBリング	
	突出長さ Lo(mm)	直径 φw1(mm)	膨らみ長さ Ls(mm)	直径 φw2(mm)	外径 φo (mm)	孔径 φh (mm)
D16	10	24	11	19	40	18.0
D19	11	29	13	23	45	20.5
D22	13	33	15	26	55	24.0
D25	15	38	18	30	60	27.0
D29	17	44	0~10	35	70	31.0
D32	19	48	0~13	38	80	34.0
D35	21	53	20	42	85	37.5
D38	23	57		46	21	4.9
					39.5	
D41	25	62		49	23	5.2
					42.5	

## ア. T形接合部(最上階)



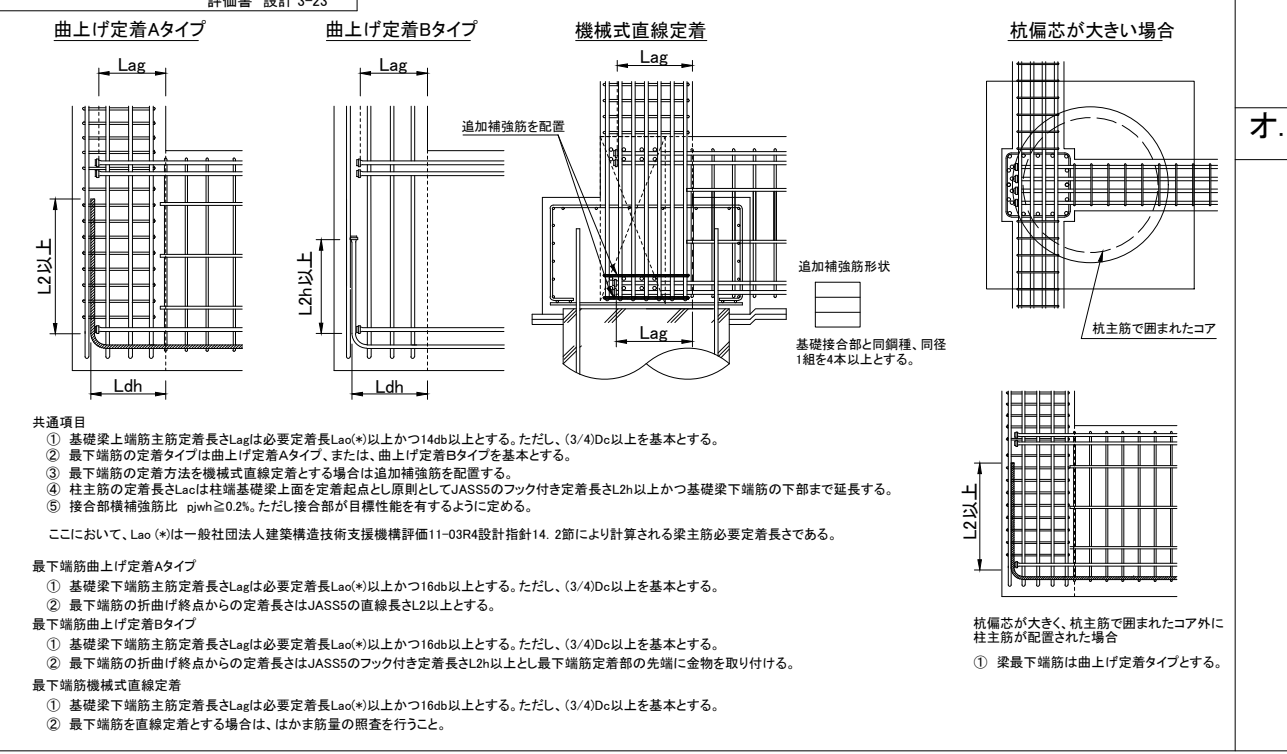
- ① 柱主筋定着長さLacは必要定着長Lao(\*)以上、16db以上かつ(3/4)Dg以上とする。
- ② 接合部横補強筋比は接合部被覆率50%以上の両側直交梁付きの場合 pjwh≧0.2% それ以外の場合は、pjwh≧0.3%とする。ただし、接合部が目標性能を有するように定める。
- ③ 柱頭補強筋比は pjvw≧0.25%とする。
- ここにおいて、Lao(\*)は一般社団法人建築構造技術支援機構 評価11-03R4設計指針 8.1節により計算される梁主筋必要定着長さである。柱主筋定着部の場合、式(8.1)中の梁上下主筋の重心間距離lgは、柱両側最外縁主筋の中心間距離lcolに読み替える。

## イ. L形接合部(最上階)



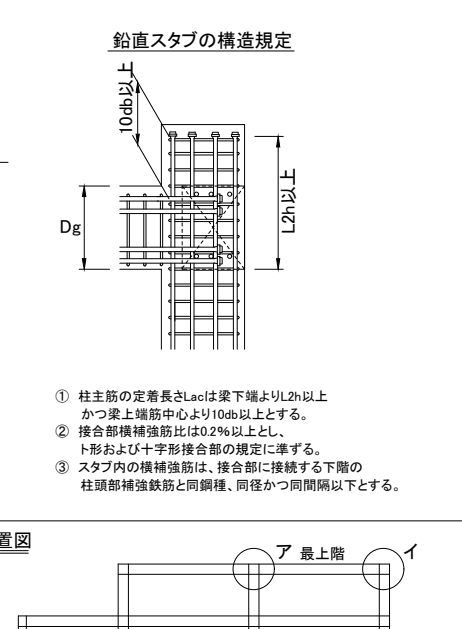
- ① 梁上端筋の投影定着長さLdhは必要定着長Lao(\*)以上、16db以上かつ(3/4)Dc以上とする。
- ② 梁下端筋の定着長さLagは必要定着長Lao(\*)以上、14db以上かつ(3/4)Dc以上とする。
- ③ 余長部タイプAは余長部曲げ終点からの定着長さLavはJASS5の直線定着長さL2以上とする。余長部タイプBは余長部曲げ終点からの定着長さLavを10db以上とし先端に定着金物を装着する。また、梁上端筋余長部と柱主筋との重ね長さLpvは12db以上とする。
- ④ 接合部横補強筋比は接合部被覆率50%以上の両側直交梁付きの場合 pjwh≧0.2% それ以外の場合は、pjwh≧0.3%とする。ただし、接合部が目標性能を有するように定める。
- ⑤ 柱頭補強筋比は pjvw≧0.25%とする。
- ここにおいて、Lao(\*)は一般社団法人建築構造技術支援機構 評価11-03R4設計指針 8.1節により計算される梁主筋必要定着長さである。

## エ. 基礎梁接合部(最下階)



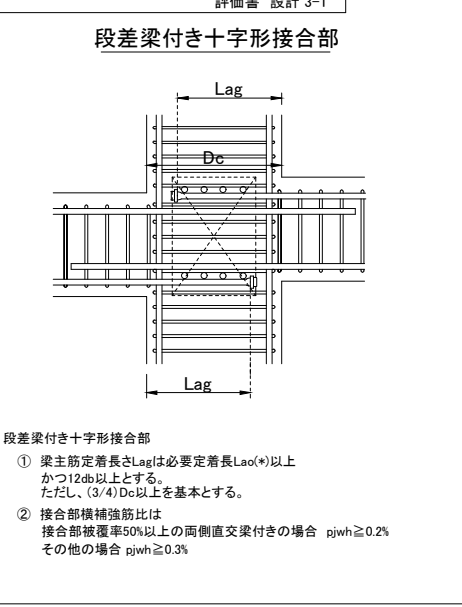
- ① 基礎梁上端筋主筋定着長さLagは必要定着長Lao(\*)以上かつ14db以上とする。ただし、(3/4)Dc以上を基本とする。
- ② 最下端筋の定着タイプは曲上げ定着Aタイプ、または、曲上げ定着Bタイプを基本とする。
- ③ 最下端筋の定着方法を機械式直線定着とする場合は追加補強筋を配置する。
- ④ 柱主筋の定着長さLacは柱頭基礎梁上面を定着起点とし原則としてJASS5のフック付き定着長さL2h以上かつ基礎梁下端筋の下部まで延長する。
- ⑤ 接合部横補強筋比 pjwh≧0.2%。ただし接合部が目標性能を有するように定める。
- ここにおいて、Lao(\*)は一般社団法人建築構造技術支援機構 評価11-03R4設計指針 14.2節により計算される梁主筋必要定着長さである。

## ウ. 上階柱断面が絞られた梁柱接合部



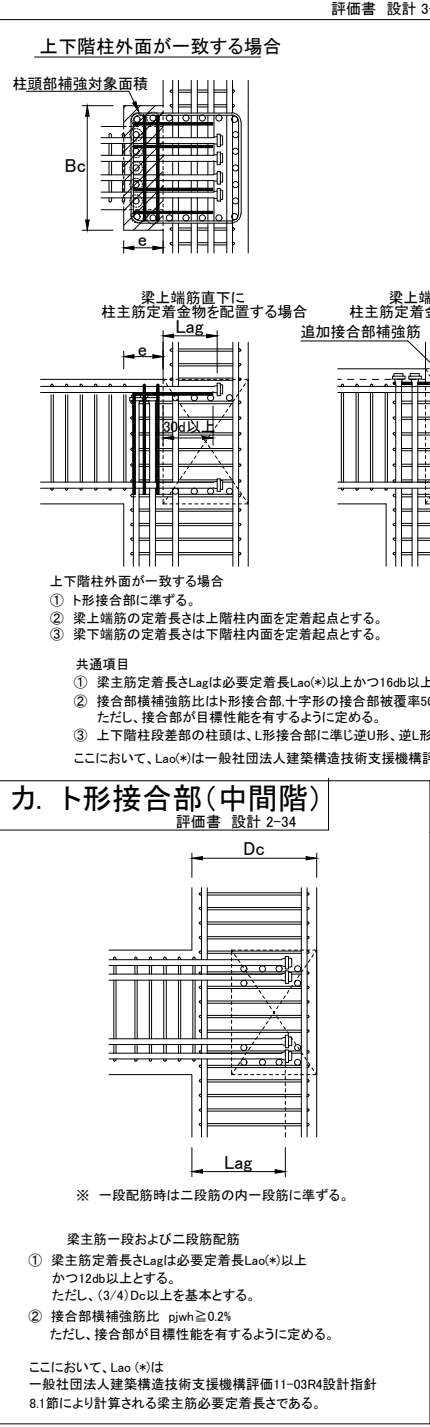
- ① 柱主筋の定着長さLacは梁下端よりL2h以上かつ梁上端筋中心より10db以上とする。
- ② 接合部横補強筋比は0.2%以上とし、ト形および十字形接合部の規定に準ずる。
- ③ スタブ内の横補強筋は、接合部に連続する下階の柱頭部補強鉄筋と同鋼種、同径かつ同間隔以下とする。

## オ. 十字形接合部(中間階)



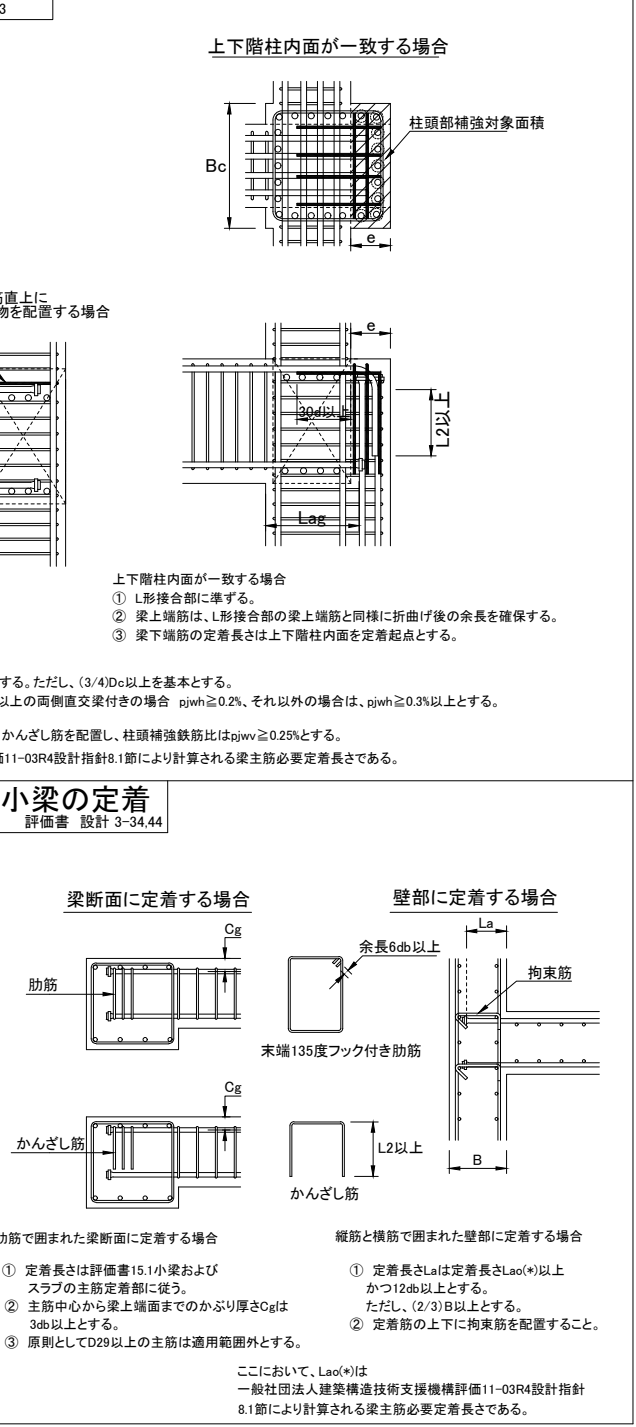
- ① 梁主筋定着長さLagは必要定着長Lao(\*)以上かつ12db以上とする。ただし、(3/4)Dc以上を基本とする。
- ② 接合部横補強筋比 pjwh≧0.2% 接合部被覆率50%以上の両側直交梁付きの場合 pjwh≧0.2% 其他の場合 pjwh≧0.3%

## カ. ト形接合部(中間階)



- ① 梁主筋定着長さLagは必要定着長Lao(\*)以上かつ12db以上とする。ただし、(3/4)Dc以上を基本とする。
- ② 接合部横補強筋比 pjwh≧0.2% 接合部が目標性能を有するように定める。

## キ. 小梁の定着



- ① 定着長さは評価書15.1小梁およびスラブの主筋定着部に従う。ただし、(2/3)B以上とする。
- ② 定着筋の上下に拘束筋を配置すること。